

2014 年度（対象年度：2013） 自己点検・評価シート【大学全体の視点】

基準 4	教育内容・方法・成果
43	教育方法

I. 自己点検・評価

1. 点検・評価項目等に基づく状況確認 《評定形式》

自己評価欄に「A：適切に実行している」「B：概ね実行している」「C：あまり実行していない」「D：実行していない」の4段階で記入してください。

項目 No.	評価項目	点検項目	自己評価	
			個別	総合
431	教育方法および学習指導は適切ですか。	①「学生に保証する基本的な資質」の修得を促進する教育方法を採用していますか。【※どのように】	B	B
		②単位の実質化を図るため1年間の履修登録制限単位を適切に設定していますか(50単位未満)。	B	
432	シラバスに基づいて授業が展開されていますか。	③教育課程編成・実施の方針を視野に入れてシラバスを作成していますか。	B	C
		④授業がシラバスどおりに行われているか組織的に検証を行っていますか。【※どのように】	C	
433	成績評価と単位認定は適切に行われていますか。	⑤シラバスに掲げている「到達目標」に基づき、成績評価がなされていますか。	B	B
		⑥成績評価の適切性を組織的に確認していますか。【※どのように】	B	
		⑦既修得単位の認定は、明確な定めに基づき適切に行われていますか。	A	

2. 現状説明 《記述形式》

対象年度における取り組みを、点検・評価項目の観点から、改善状況を含め総括してわかりやすく説明してください。
点検項目欄【※どのように】と記載のある項目は、取り組み内容を具体的に、記述してください。

- ①「教育課程編成・実施の方針」では、具体的なカリキュラム（プログラム、科目区分・構成、科目、履修順序（配当年次等）の考え方等）を明示し、その中で、授業形態についての枠組み（講義・演習・実習等）を明示している。また、一部の授業科目では、討議や発表等を取り入れた学生と教員との双方向の授業や、実社会の問題・課題を題材に解決策を学生に主体的に考えさせるといった教育方法を導入した授業があるが、どの程度の授業で実施されているのか全学的に把握していない。
- ②単位の実質化を図るため、各学部ではキャップ制を導入しているが、2013年度では、理工学部、社会学部、国際文化学部が50単位以上を設定していた。その後、理工学部では、2014年度から49単位となるように改善が図られたが、社会学部では編入学生60単位、国際文化学部では編入学生52単位と履修登録を認めている単位数が多く改善する必要がある。
また、夏期休業期間中のサマーセッション（集中講義）、諸課程科目、他大学との単位互換科目は、履修登録制限の適用外としており、改善する必要がある。
- ③シラバスの記載項目については、全学的に教務会議を通じて決定しているが、記載する内容については、各教員に委ねられており、事前に何ら点検されずに、直接、学生や社会に発信されている現状について、組織的に確認する必要性及びその方法等について検討する必要がある。このことも踏まえ、2013年度に大学教育開発センターが「シラバス作成の手引き」を作成して、Web上に公開し、研修会を通じて各教員に周知を行った。
「教育課程編成・実施の方針」と各授業科目との関係については、未だシラバスに示されておらず、改善が必要である。

- ④毎年度2回（各学期1回）実施している「授業アンケート」の結果では、約70%の学生が「シラバスに基づく授業が実施されている」と回答しており、概ねシラバスに基づいて授業が実施されている。しかし、これらのアンケート結果は、各教員にフィードバックされるのみであり、組織的な検証には至っていない。
- ⑤成績評価と単位認定については、4つの成績評価方法、6つの成績評価基準を設定し、履修要項及び本学ホームページに明示している。授業担当教員は、これらに則り、厳格に成績評価を行っており、シラバスに「成績評価の方法」を記載して学生に明示している。しかし、成績評価の方法については、個々の教員に委ねられており、組織的な検証は行われていない。
- ⑥成績疑義の申立制度を設けることにより、評価の客観性を担保している。教養教育科目の内、「初修外国語」では学期末の成績評価を行う前に、非常勤講師を含めた採点会議を開催し、合格率や成績分布に過度の偏りが出ないようにしている。また、必修英語では統一の共通テストを実施し、個々の担当者の成績評価に反映させることにより、評価基準を統一している。
- 「仏教の思想」、人文科学系科目、社会科学系科目、自然科学系科目では定期的に成績評価に関する会議を持ち評価に係る共通事項の確認を実施している。
- ⑦既修得単位の認定については、学則第26条～第28条に定められており、学生には履修要項にも掲載して明示し、単位制度の趣旨に基づき、適切に単位認定を行っている。

〔改善すべき点の確認〕 前回の点検・評価で、自ら「改善すべき点」と掲げた事項や、評価結果で「改善すべき点（【改善勧告】【努力課題】【留意点】）」とされた事項があれば、この欄に箇条書きで記載してください。

（自ら「改善すべき点」と掲げた事項）

- ・「授業アンケート」をはじめとする授業改善に向けた様々な取り組みについて、組織的に検証できる仕組みを構築できていない。このため、大学教育開発センターで検討が進められている学生と教員の教育に関するツールの一本化を目的とした「Web履修登録・Webシラバス・授業アンケート機能を包括した『学修記録の構築』」に向けて、組織的な検証を可能とする制度に改善する。

（評価結果）

- ・教養教育の教養科目（プログラム）の改善については、教養教育センターの設立にともなうカリキュラム改革の中で進めていただきたい。【留意点】
- ・「学生に保証する基本的な資質」の修得を促進する教育方法については、シラバスの授業時間外の学習についての記述を充実させるなどさらなる工夫が必要である。【留意点】
- ・シラバスについては、まずは各教学責任主体で責任を持って内容の確認を毎年度行う仕組みを早急に構築していただきたい。シラバスが完全WEB化された状況において、各教員が記載した内容が何ら点検されずに、直接、学生や社会に発信されることの無いように組織的に進める必要がある。【努力課題】
- ・本学にはシラバスの位置づけや役割を明文化したものがないので、大学教育開発センターを中心に策定していただきたい。【努力課題】

3. 効果が上がっている点とその伸長方策 《箇条書き》

現状説明を踏まえ、効果が上がっている事項（特色ある取り組みや成果創出など）とその伸長方策を記述してください。

特になし

4. 改善すべき点とその改善方策 《箇条書き》

現状説明を踏まえ、改善すべき事項とその改善方策を記述してください。

- ・夏期休業中に開講する集中講義や、主として卒業研究・論文の作成を目的とした「演習科目」については、他の受講科目の学修時間に影響しない期間であることや、学生の自主的な学修に重点を置く科目であるため、学生の学修実態に即して、履修登録の上限設定に含めていない学部がある。また、正課の科目に加えて、資格取得を目指し随意科目を受講するなど学習意欲の高い学生には、その意欲に応えるために同じく履修登録の上限設定に含めていない学部があるなど、例外事項が多く、単位の実質化の観点から改善する必要がある。このことについては、大学認証評価においても努力課題として指摘がなされた。
- このような措置は、従来、各学部の判断に委ねられていたが、今後、これらの現状を踏まえ、教務会議を中心に検討を進める。

5. 根拠資料 《リスト形式》

項目 No.	根拠資料の名称
431・432・433	WEB シラバス
431・432・433	履修要項
432	学生による学期末の授業アンケート報告書【2013 年度版】
433	龍谷大学学則第 38 条、第 39 条

II. 評価結果

総評
シラバス作成について手引を作成し、研修会を通じ各教員に周知したことは評価できる。 ただ、昨年努力課題としてあげられたシラバスの記載内容については、各教員に委ねられ事前に点検されず、学生や社会に発信されていると現状説明されている。全教学責任主体で責任を持って内容の確認を毎年度行う仕組みを早急に構築していただきたい。シラバスが完全 WEB 化された状況において、各教員が記載した内容が何ら点検されずに、直接、学生や社会に発信されることの無いように全学的に進める必要がある。 認証評価の結果、努力課題となった「全学部の履修登録上限について、学部によってその取り扱いが異なるが、例外事項が多く随意科目以外にも卒業研究・卒業論文や特定の専攻科目がその対象外となっているので、単位制度の趣旨に照らし、改善が望まれる」点についても、単位制度の実質化の観点から早急に検討を開始していただきたい。
伸長すべき点(長所) 《箇条書き》
シラバス作成について手引を作成し研修会を通じ各教員に周知したことは評価できる。
改善すべき点 《箇条書き》 * 各項に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載
・シラバスについて、全教学責任主体が責任を持って内容の確認を毎年度行う仕組みを早急に構築していただきたい。シラバスが完全 WEB 化された状況において、各教員が記載した内容が何ら点検されずに、直接、学生や社会に発信されることの無いように全学的に進める必要がある。【努力課題】 ・認証評価の結果、努力課題となった「全学部の履修登録上限について、学部によってその取り扱いが異なるが、例外事項が多く随意科目以外にも卒業研究・卒業論文や特定の専攻科目がその対象外となっているので、単位制度の趣旨に照らし、改善が望まれる」点についても、単位制度の実質化の観点から早急に検討を開始していただきたい。【努力課題】
※【改善勧告】【努力課題】は、改善計画書の提出が必要

III. 大学基準協会からの助言について

助言内容
【認証評価結果 努力課題】
1) 全学部の履修登録の上限設定について、学部によってその取り扱いが異なるが、例外事項が多く、随意科目以外にも卒業研究・卒業論文や特定の専攻科目がその対象外となっているので、単位制度の趣旨に照らし、改善が望まれる。

IV. 全学的課題事項

2013 年度	■評価項目 432 本学にはシラバスの位置づけや役割を明文化したものがないので、大学教育開発センターを中心に策定していただきたい。【努力課題】
---------	---